

[活動報告]

# 『DAKARAプロジェクト』

A班

# 目次

1. インターンシップ活動の振り返り
2. 現状の課題把握
3. 「大学生だからできること」の提案  
→スクールサロンを作ろう！
4. まとめ

# インターンシップを通して

民生委員とは・・・一番身近な福祉

- ・同じ住民だから相談できる
- ・同じ住民だから信頼できる
  
- ・同じ住民だから理解できる
- ・同じ住民だから援助できる

※民生委員町医者理論

# インターンシップを通して 分からなかったこと、疑問点

- 「若い世代の人に民生委員になってほしい。」というけれど、働きながら民生委員を務めるのは厳しいのではないのだろうか？
- 民生委員の仕事の範囲ってどこまでなのだろうか？
- 住民に拒否されて、見守りができないときは民生委員はどうしたらいいのだろうか？

# 現状

- ・業務内容のあいまいさ・多様化
- ・認知度が低い
- ・仕事の量の多さ
- ・次の担い手が見つからない
- ・任期一期目で辞めてしまう人が多い
- ・支援の方法が分からない

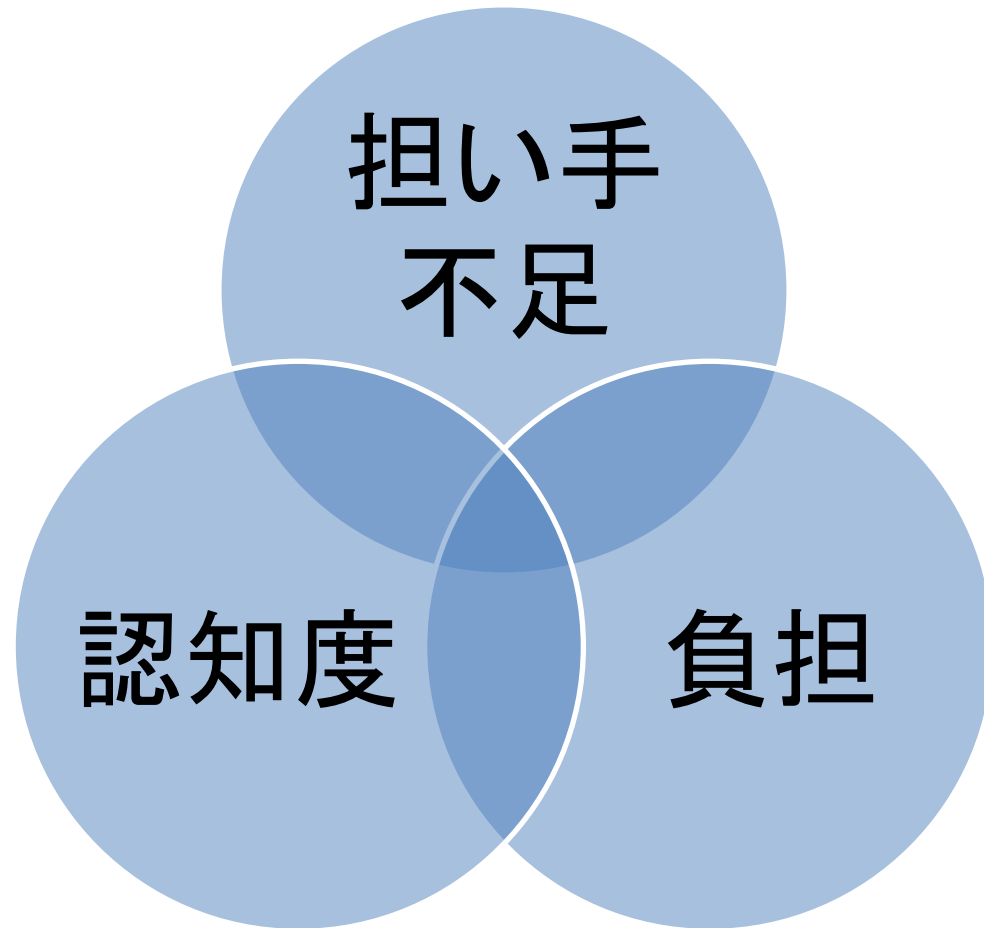
だから

「一番身近な福祉」であり続けるための

精神的・身体的負担

大 !!!

# 課題



大学生だからできること

A班

# 大学生だからできること①

～民生委員活動の補助～

民生委員の困りごとをヒアリング、大学に持ち帰り、教授よりアドバイスを受け、それを民生委員に伝える。大学生がQ&Aの仲介をする。





# 大学生だからできること②

～民生委員活動PR～

- ・小学生向けの

民生委員体験プログラムの企画

(サロン活動を通して、地域で活動する民生委員の活動を知ってもらう。)

子どもが活動に参加することで、  
親の世代にも知ってもらえる！！

# 大学生だからできること③

- 民生委員インターンシップの経験を話す。
- 大学内のサークルを呼び、サロンなどで出し物をし、地域を盛り上げる。
- サロンや祭りなどの行事のお手伝いをする。

スクールサロンを作ろう！

# 企画の内容

小学生が民生委員の活動を学び、  
実際に体験する。

# プログラム

- 1、事前学習
- 2、家庭科の授業でサロンを行う
- 3、民生委員について学んだことを授業参観で発表する

# 1、事前学習①

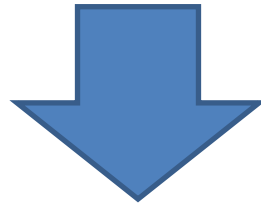
- 大学生が、民生委員インターンシップの経験を小学校で小学校高学年の子どもを対象に話し、民生委員について知ってもらおう。

(内容)

- 民生委員とは？
- 民生委員の仕事(見守り、サロン活動のこと)
- 民生委員インターンシップで学んだこと

# 1、事前学習②

- 大学生の話を聞いて、民生委員の活動でもっと知りたいことなどを考える。
- 地域の人にとって民生委員はどんな存在なんだろう？と考えてみる。



- 当日、地域の人や民生委員さんに質問する。

## 2、家庭科の授業でサロンを行う

- 家庭科の調理実習で子どもが料理するのを、地域の人や大学生がサポートする。
- 作った料理を一緒に食べて、交流する。
- 食後、民生委員についてのゲーム(大学生が司会)
  - 例) 民生委員さんはお金をもらってる！○か×か？
- 事前学習で考えたことを民生委員や地域の人に聞く。



# 3、授業参観で発表する

- 調理実習の班ごとに、学習を通して学んだことを、授業参観で親と民生委員に向けて発表する。
- 発表後、民生委員から感想を聞く。

# 企画の意義

- 子どもと親の両方に民生委員の活動をアピールできる。 → 次世代の担い手に！
- 世代を超えて、地域の人との交流ができる。
- 継続して行える。
- 民生委員が子どもの学校での様子が知れる。

# まとめ

- 現状の民生委員・児童委員活動は、委員の方々の努力によって成り立っている部分が多い→制度としての改善の余地がある
- 若い世代の人々にはまず名前を知ってもらうこと、そして次に魅力をアピールすることが必要ではないか（その提案としての「スクールサロン」）

ご清聴ありがとうございました！